

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工 ((生)1年))

范 莉馨・非常勤講師 / 全学共通教育センター

1 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一步進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】 コミュニケーション、中国語、発音、基礎文法

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 [関連科目]

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第 11 課
3. 第 12 課
4. 第 13 課
5. 第 14 課
6. 第 15 課
7. 第 16 課
8. 第 17 課
9. 中間テスト
10. 第 18 課
11. 第 19 課
12. 第 20 課
13. 第 21 課
14. 期末復習
15. 期末テスト
16. 総括授業

【教科書】 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版②』(朝日出版社)1000 円。

CD があるので必ず購入すること。

【参考書等】 [参考資料]

【成績評価の方法】 小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。具体的な点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%、中間考査が 40%、期末試験が 50%ということになっています。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221268>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 范 .

Chinese

Introductory Chinese

(工((生)1年))

名 姓・PART-TIME LECTURER / CENTER FOR GENERAL EDUCATION

1 unit 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

Target) 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一歩進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

Outline) テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

Keyword) コミュニケーション, 中国語, 発音, 基礎文法

Fundamental Lecture) [先行科目]

Relational Lecture) [関連科目]

Goal) 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

Schedule)

1. ガイダンス
2. 第 11 課
3. 第 12 課
4. 第 13 課
5. 第 14 課
6. 第 15 課
7. 第 16 課
8. 第 17 課
9. 中間テスト
10. 第 18 課
11. 第 19 課
12. 第 20 課
13. 第 21 課
14. 期末復習
15. 期末テスト
16. 総括授業

Textbook) 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版②』(朝日出版社)1000 円。

CD があるので必ず購入すること。

Reference) [参考資料]

Evaluation Criteria) 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。具体的な点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%, 中間考査が 40%, 期末試験が 50%ということになっています。

Re-evaluation) 有

Message) 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221268>

Contact (Office-Hour, Room, E-mail)

⇒ 范 .